

# 九州の仏像

別府史談会創立二十周年記念総会祝賀会の講演で、八尋教授が、九州の仏像に関する詳細なレジュメを準備されました。その内大分県関係の仏像に関する部分を抜粋して掲載し、今後の研修の資に供することにしました。

研修部

## 八 尋 和 泉

一、仏像の見方のために

(1) 仏像について「知ること」と「感じる」こと  
知識と感覚

(2) 仏像の「かたち」と「尊名(名称)」

「如来」・「菩薩」・「明王」・「天部」・「羅漢」・

「僧形」・「垂迹関係」

(3) 日本仏教美術の時代

《飛鳥前期後期》 《奈良時代》 《平安時代》

《鎌倉時代》 《室町時代》

(4) 仏像の材質

(金属) (塑像) 土 (乾漆) 漆・麻

(木造) 檜・榿・樟 (石造) 凝灰岩・花崗岩

(5) 仏教美術のいろいろ (略)

二、九州の仏像 (大分県関係のみ、他県分略)

(1) 奈良時代まで

塑像 宇佐天福寺奥の院 (大分県歴史博物館展示)

金銅釈迦誕生像 下毛郡三光村瑞雲寺出土

金銅阿弥陀如来立像 (重文) 大分市杵原八幡宮

銅造観音菩薩立像 (県指定) 中津市羅漢寺

観世音菩薩立像 (県指定) 三光村長谷寺七〇二

銅造如来立像 大分市金剛宝戒寺

(2) 平安時代

普賢延命菩薩 大分市大山寺

正観音像 豊後高田市内野観音堂

(3) 平安石仏

磨崖仏 臼杵・国東・大野川流域

(4) 鎌倉時代と南北朝時代

① 鎌倉初期の仏像

毘沙門天像 日田永興寺一一八七 (鎌倉時代)

② 十三、四世紀の仏像と仏師

ア. 仏師名と制作時期が分る仏像

《覚昭》・大威徳明王 大分吉祥寺一二八四

《覚行》・阿弥陀坐像 大分千光寺一二九四

《覚朝》・釈迦坐像 大分万弘寺一三五四

《大慶新棟》・釈迦坐像 大分若八幡社一三九七

イ. 慶派仏師

《興福寺大仏師広俊》

大日如来像 大分金剛宝戒寺一三二八

四天王像 大分永興寺一三二一—二

《運慶五、六代孫の康誉・広俊》

釈迦三尊像 大分岳林寺一三四三・康誉

釈迦坐像 大分国東市実際禅寺一三四七・広俊

③ 中世の石仏

檀本磨崖仏不動明王外 大分宇佐市安心院一四二八

丸彫石造仁王像 国東市岩戸寺一四七八・作者清普

以上

木造四天王立像

日田市大字北豆田 永興寺蔵

上記レジュメにある「慶派仏師」作の「四天王像」がこれであるが、四軀とも桧材の寄木造りで、向かって左から、持国天、增長天、広目天、多聞天である。胎内背部の墨書銘から元亨元年



(一一三二—)

ら翌年にかけて、奈良興福

寺の仏師三人

で作ったこと

が知られる。

像身長は最高

一・六〇米で

ある。